

かく、みる、つなぐ

—ここからの軌跡をたどる—



平成29年 **12月2日(土)~17日(日)** 10時~17時
ミュージアム川崎シンフォニーホール 企画展示室ほか

主催: 一般社団法人 全国精神保健福祉連絡協議会 共催: 川崎市 公益社団法人 日本精神保健福祉連盟 日本 DIVERSITY IN THE ARTS beyond 2020

後援: 公益社団法人 日本精神神経科診療所協会 / 公益財団法人 日本精神衛生会 / 一般社団法人 日本いのちの電話連盟 / 公益社団法人 全国精神保健福祉連合会 みんなねっと / 一般社団法人 日本精神科看護協会 / 公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 / 一般社団法人 日本作業療法士協会 / 公益財団法人 精神・神経科学振興財団 / きょうざれん / 公益財団法人 こころのバリアフリー研究会 / 一般財団法人 日本公衆衛生協会 / 全国精神保健福祉センター長会 / 全国保健所長会 / 全国精神保健福祉相談員会 / 自殺対策円卓会議 / 一般社団法人 全国自死遺族連絡会 / 公益社団法人 日本精神神経学会 / 一般社団法人 日本臨床心理士会 / 公益社団法人 全日本断酒連盟 / 一般社団法人 神奈川県精神科病院協会 / 一般社団法人 神奈川県精神保健福祉協会 / 神奈川県精神保健福祉士協会 / 一般社団法人 神奈川県医療ソーシャルワーカー協会 / NPO法人 じんかれん / 神奈川県精神保健ボランティア連絡協議会 / 公益社団法人 神奈川県栄養士会 / 公益社団法人 神奈川県介護福祉士会 / 田園調布学園大学 / 特定非営利活動法人 川崎市精神保健福祉家族会連合会 あやめ会 / 塩野義製薬株式会社 / 特定非営利活動法人 神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会 (2017年11月時点)

かわさきパラムーブメント

川崎市では、障害のある人などが生き生きと暮らす上での障壁となっている、私たちの意識や社会環境のバリアを取り除くことや、新しい技術でこれらの課題に立ち向かうことを「ムーブメント」として展開していきます。2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、そして2024年の市制100周年へとつなげていきます。



日本財団 DIVERSITY IN THE ARTSとは

日本財団では、多様な個性に寛容なインクルーシブな社会の実現を目指し、「障害者と芸術文化」の領域への支援を行っています。
「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS (ニッポンザイダンドアイバーシティ・イン・ジ・アーツ)」は、既成にとらわれない多彩な展覧会などの企画、積極的かつ横断的な情報発信を通じて多様性の意義と価値を広く伝え、越境や交錯、交歓の喚起を目指す新たなプロジェクトです。
多くの人が参加者となり、さらに新たな担い手や企てが生まれるよう、複数の企画を東京オリンピック、パラリンピックが行われる2020年に向けて開催いたします。



この展覧会は、日本財団のDIVERSITY IN THE ARTSの一環として、また、川崎市のかわさきパラムーブメントと密接なつながりをもって開催します。

トークイベントのご案内

12月2日(土) 13時~17時 会場: ミューザ川崎企画展示室 **参加申込不要**

「オープニングセレモニー・クロマニンゲン宣言」

12月3日(日) 13時~17時(12時30分開場) 会場: ミューザ川崎第1-3研修室

「ともにそだて、ともにいきる」

共催: 塩野義製薬株式会社、シャイアー・ジャパン株式会社

12月9日(土) 13時~17時(12時30分開場) 会場: ミューザ川崎第1-3研修室

「つらくなること、なやむことを、ちからにする」

12月10日(日) 13時~17時(12時30分開場) 会場: ミューザ川崎第1-3研修室

トークセッション「子どもが逆境を経験することについて」

12月13日(水) 13~17時(12時30分開場) 会場: ミューザ川崎会議室2

トークセッション「みえないから、みえる」

共催: 日本うつ病センター

12月16日(土) 13時~17時(12時30分開場) 会場: ミューザ川崎第1-3研修室

「コミュニティのトラウマとアートの役割」

12月17日(日) 13~16時(12時30分開場) 会場: ミューザ川崎企画展示室

ギャラリートーク「かく、みる、つなぐ-作品の社会的価値と保存を考える」

アートとトークによる多様性尊重の社会づくり展

かく、みる、つなぐ

—こころの軌跡をたどる

ごあいさつ

人びとのこころの健康を守るには多様性が尊重される社会づくりが重要です。
この展覧会では、こころの健康問題を経験したひとたちとそのアートを中心に据え、
こころの健康、ひとの繋がり、社会のあり方などについて改めて考え合います。

展示は3つのコーナーと特別展示で構成されています。

また、イベントは毎週土日と13日(水)に開催されます。

それぞれの味をお楽しみください。

全国精神保健福祉連絡協議会
会長 竹島 正

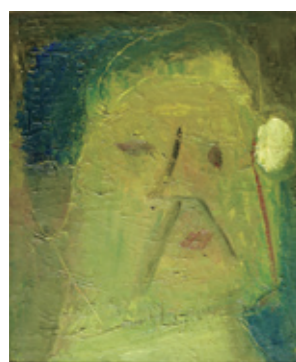
有馬忠士-夢宇宙の闇と光をめぐる旅



1940年東京に生まれる。
1953年、父の経営する製薬会社が倒産、家族全員が自活生活に入る。
高校卒業後、流民生活を送った後、指折りの飾り職人となるが、結核のために療養所入所。
この頃、デッサンや油絵の制作に専念する。
結核療養所を退所後に独立し、飾り職人としての仕事は完成度を高めていくが、婚約者が病死、1971年には幻聴や幻覚が始まり、精神科病院に6回入院退院する。
この頃、絵画創作活動が復活する。
数回の転居の末に、神奈川県横須賀市の山の中に居を定め、1982年に心臓麻痺で死去するまで、500点近い作品を制作した。



王様と私と強者たち



今年2月、古くからの土佐病院デイケア絵画クラブメンバーの一人で私の絵のモデルを務めてくれた岡田進さんが亡くなりました。
岡田さんは誰からも好かれるデイケアの人気者で絵画クラブにもずっと参加していました。黙って座っているのが苦手というモデルで喋るか寝るかでしたが、私にはそれがよかったです。
土佐病院がデイケアを始めて40年
私が絵画講師を務めるようになって30年
この機会に昭和の終わりから平成のはじめにかけて岡田さんと岡田さんをモデルに描いた私の作品、そして土佐病院デイケア絵画クラブに参加してくれた強者たちの作品を展示します。

クロマニンゲン集合

鹿児島ではクロマニンゲン展実行委員会(代表 坂井貞夫)による「クロマニンゲン展」が2011年から開催されている。

—突然変異の芸術家たち「クロマニンゲン」。約4万年前、人類は突然絵を描きはじめた。クロマニヨンと名付けられた彼らは、明晰な頭脳と豊かな妄想力によって興味深い芸術を生み出した。それは人々の心に大きな影響をもたらし、文明へと発展し劇的な進化を遂げた。現代社会はその人類の英知の集大成である。しかし、人類は今、混沌の時代に突入したようだ。まるで矛盾した設計によってつくられた絶叫マシンに乗せられ、悲鳴と恍惚の叫びを上げているように見える。こうした現代の多次元的な衝撃波によって、芸術家たちに新たな異変が起きているのではないだろうか。ここに突然変異の天才芸術家たちを「クロマニンゲン」と名付け、そのユニークな作品展を開催し未来の始まりを見たいと思う。—

これにヒントを得て、過去から現在へそして未来へとつながる「クロマニンゲン」の系譜と個々の作家と作品への敬意を表して「クロマニンゲン集合」とした。



〈造形教室〉共同作品

1968年から精神科病院内で継続されてきた〈造形教室〉。「治療」や「教育」といった、上から与えられ、課せられ、外から評価、解釈されるものではなく、それぞれが表現活動の主体となって自由に描き、身をもった自己表現の体験を通して、その人その人の内に潜在する可能性を引き出し、もう一人の自分と出会い、自らを「癒し」支えていく「営みの場」を目指し、試行し続けている。

特別展示 東野健一作品



1947年1月4日 神戸に生まれる。
40才で会社勤めを辞め絵描きになる。
この年、インド西ベンガル州に渡り、古くから伝わるポトゥア(絵巻物師)に出会いポトゥ(絵巻物)を自作・自演するようになる。
描かれるのは想像上の世界を含めた動物や植物、インドの神様など。
—昨年、末期の胃がんで余命半年と宣告され“表現者”として生きることを選んだ。
差別への静かな怒りを持ちながら障害のあるなし、国境を超えて明るく交流し
2017年1月、入院している病院での展覧会をさいごに旅立った。